

第3回 インターンシップに役立つ 企業・業界研究 Part1

日時：2019年5月21日（火） 16:20～17:50

場所：文学部B251講義室

講師：杉原沙知子氏（株式会社マイナビ）

今回のリテラアワーでは、マイナビの杉原先生に、インターンシップに役立つ企業・業界研究についてお話いただきました。

まずは就活の流れをおさえておきましょう。内定に至るまでには、「(企業を) 絞り込む」→「選考を受ける」という過程を経ます。しかし実は「絞り込む」前に、①「仕事を幅広く観る」、②「気になる仕事を調べる」という準備が必要となってきます。この準備がしっかりできているかどうかによって、今後の就活(志望動機を明確化できるか)、あるいは人生(内定ブルーに陥らずに済むか)が大きく左右されると言えるでしょう。今回のPart1では、①「仕事を幅広く観る」に焦点を当てて考えてみましょう。

ではどのように「仕事を幅広く観」たらいいのでしょうか。

まずは、「業界、業種、企業、職種から観る」という方法があります。たとえば、ある銀行(企業)を希望する場合、他にどのような銀行(同業種)があるのか、さらに金融業(同業界)には銀行以外にどのような業種(保険、証券 etc)があり、企業があるのか。このように、自分が興味のある企業を中心として視野を広げていくことによって、類似する業界、業種、企業と比較することができます。そうしてはじめて、なぜ自分はその特定の企業を希望するのかが具体的に明らかになるのです。『業界地図』等を参考にしてみてください。

他に「職種から観る」という方法があります。一般的には業界、業種が注目される傾向にあります。各企業にどのような職種があり、どのような人材が必要とされているのか、説明会などで質問してみるのもいいでしょう。ちなみに文系の就活生に最も人気がある職種は「企画」だそうですが、実際に企業側が最も必要としているのは「営業」とのこと。営業に携わることはじめてその企業(商品、顧客)を理解することができ、そこが理解できてはじめて、将来的に企画や広報に携われるようになると思う企業が多いようです。

「自分の興味から広げる」というのもいいでしょう。たとえば「化粧品」ひとつ取ってみても、化粧品メーカーや小売りだけでなく、原材料メーカーや、加工メーカー、運搬、金融、広告など、様々な業種の様々な企業が関わっていることがわかります。世の中の流れをイメージすることが大切です。

「企業と取引をしている会社か、一般消費者と取引をしている会社か」「従業員数はどれくらいか」等、いくつかの視点でグリーピングしつつ広げていく方法もあります。「企業間の関わりから広げる」という方法もたいへん有効です。「同業種競合」「関連・取引先」「異業種競合」といった視点で企業をマッピングしつつ、視野を広げていくとよいでしょう。特に近年では、ある企業が全く業種の異なる事業に進出している例も多く(例えば富士フィルムは化粧品分野にも進出)、そうした異業種事業にも注目しつつ競合企業を調べ上げていく方法も、たいへん役に立ちます。

以上、「仕事を幅広く観る」ことについてお話が行われましたが、もちろん「仕事を深く知る」ことも必要です。サイトに掲載されている企業取材記事を例に、どのような人材が求められているのかを読み解くコツについて、解説が行われました。漫然と情報に目を通すのではなく、ポイントを押さえて読むことが大切です。また、マイナビサイトを使ったインターンシップの探し方、登録の仕方も説明されました。上記の方法で視野を広げ、様々な企業にトライしてみてください。

最後に受講生の感想をいくつか紹介します。

- ・ピンポイントではなく、幅広い視点を持つと思った。
- ・気になる企業から広げていって業界全体の研究をし、さらに興味のある分野を見つけていきたい。
- ・先のことだと思わずに、今の時点で情報収集をしようと思った。
- ・興味がある企業だけでなく、そこから広がっていく企業や業種にも目を向けていきたい。
- ・そもそも知識が足りていないので、どのような職業があるのか、毛嫌いせずに調べていきたい。

参加者：学生 39名、教職員 3名

